

大阪・関西万博開催に向けた意見

御所属 関西広域連合委員 大阪市長 御名前 松井 一郎 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

●大阪・関西の経済成長

- ・ライフサイエンス分野の様々な機関が集積している大阪・関西の強みを活かし、新たな産業を生み出し、イノベーションを起こし、大阪・関西の経済成長に繋げるべき。
- ・経済波及効果が見込まれる万博が、地元企業にとって、大きなビジネスチャンスとなり、大阪・関西の地域経済の更なる発展に繋げるべき。

●最新技術の体験

- ・世界中が驚くような最新技術を体験できる万博にすることで、新たな価値観を生み出し、新たな夢を抱けるような万博にすべき。

●若手クリエイターの登用

- ・1970年万博では、黒川紀章氏、コシノジュンコ氏など、当時30歳代の若手クリエイターが積極的に登用されていた。2025年万博も積極的に若手クリエイターを登用するのが重要。

●幅広い市民参画

- ・ボランティアを含め幅広い市民参画を取り入れ、世界の人々との出会いを通じて市民が楽しみながら万博に参加し、まち全体としておもてなしが創出されるような万博にすべき。

●子ども達と世界の人々とのふれあい

- ・これから、ますます世界中の国と国が繋がっていく国際社会となる。万博を機に未来社会を担う子ども達が世界の方々と交流できるような体験を検討すべき。

●大阪文化の発信

- ・大阪が誇る食文化・お笑い・伝統芸能を広く発信し、来場者に体験・実感していただける万博にすべき。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

●10歳若返る万博

- ・「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、人が人生最期まで、健康で豊かに自立して過ごせるための、モノや技術、サービスを提供したい。
- ・具体的には、関西・日本のライフサイエンスや健康に関する技術、サービスを最大限活用して、来場された方が「10歳若返り」を実感できる万博にしたい。

●メインとなるコンテンツ

- ・1970年万博（テーマ：人類の進歩と調和）の「月の石」や、2005年万博（テーマ：自然の叡智）の「冷凍マンモス」のように、今回の万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った、世界中の人々が体験してみたいと思えるようなコンテンツを考えて欲しい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

●輸送手段の多様化

- ・自動運転技術など最新技術の活用や、新たな輸送手段の開発・実証を行い、交通の効率化や多様化を通じて会場への移動や会場内での移動も含めて楽しめるような万博にすべき。

●オープン・イノベーション

- ・イノベーションによりSDGsの達成を加速化させるため、国内外、中小企業と大企業、伝統技術と最先端技術など、企業規模や業種や時代を超え、それぞれが持つ技術や知識を結びつけるオープン・イノベーションの場とすべき。

●社会実験場としての規制緩和

- ・万博を機に、新しい産業を生み出すような環境づくりができるよう、夢洲周辺等で規制を無くした地域を作り、あらゆる実験が可能となる万博にすべき。

●万全な災害対策

- ・夢洲の万博会場は、十分な地盤高を確保するなど、津波や高潮への安全性を備えた造成を大阪市において行っているが、万博の運営においても全ての来場者が安心して楽しめるよう、ハード・ソフト両面から災害対策をしっかりと行うべき。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。**●G20大阪サミット・東京2020のノウハウの活用**

- ・会場運営やボランティアの活用、インバウンド対応など、ビッグイベントならではの経験・ノウハウを万博に活かすべき。

●国主導の広報活動の強化

- ・万博は国家プロジェクトであり、国内外への情報発信を定期的に行うなど、国が主体的に開催機運を醸成していく必要がある。とりわけ交通政策をはじめ、地元に対する広報活動の徹底をお願いしたい。